

質疑應答

問、丘博士の「進化論講話」及「生物學講話」中なる次の動物學名御教示願上候

(イ)共和政治鳥、(ロ)壺蟻、(ハ)收穫蟻、(ニ)小屋鳥、(ホ)黄蝶(種々の變化を表はす黄蝶の意)(ヘ)平巻貝(多くの形を有する平巻貝の意)

(M. I. 生)

答、(イ) *Philhæetus socius*. (ロ) *Myrmecocystus meliger*. (ハ) *Pogonomyrmez barbatus*. (ニ) 種々あり、*Chlangaderva*, *Ptilonorhynchus*, *Prinodura* 等 (ホ) *Tritus multiformis* (= *T. lucubræ*) (ク) *Planorbis multiformis*. (T. K. 生)

問、「セントリオール」、「プラニエラ」説「パレンキメラ」説及び「アラスデア」説に就て御説明を願ふ (M. I. 生)

答、「セントリオール」とは細胞内の小顆粒にして休止期即ち核分裂と分裂との間の期間 (interkinesis) に於て二個相接近して存在することあり、核分裂の際には通常周圍に *Centro plasma* 生じて *centrosome* となりセントリオールは其中心に居を占む。

「プラニエラ」説「パレンキメラ」説及び「アラスデア」説は皆後生動物の起源を説明せんとする假説にして詳細は本誌一五卷二二七頁以下を参照せらるべし。 (谷津直秀)

新著紹介

●『動物の心』 谷津直秀、高橋堅 共譯。

「ザッサー」大學教授ワッシュンバーン女史の著を兩氏の譯せられたるもの

(内外書報) ○質疑應答 ○新著論文 ○新刊圖書

なるが、原書は下等動物に就ての材料の豊富なる採録の丁寧なるに於ては比較心理學書の少なからぬ米國に於ても一異彩を放てるものなり。著者は「實驗的證左によつて解釋せる動物の心」と題する方内容にかなへりと附言せるが、流石女性の筆として初學者の手を取つて導く様に先づ入門の心得を説いて、おもむろに興味ある動物心理學の廣汎な諸方面に亘りて斯學の趨勢を提示せり。比較心理學の興味の普及せざる吾國に本譯書を得たるは正に若草の慈雨を得たるが如きものにて動物學者中にも心理學者中にもきつと此の方面に興味を覺えて研究に志す人が生ずるなるべし。下等動物に就ての實驗の採録の豊富な丈に動物學生にとりてもロイド・メルガンやホルムズの譯書よりも親しみ易かるべし。菊版、四百三十餘頁。裳華房發行。

●新刊圖書

CHANDLER, A. C. '18.—Animal Parasites and human disease. (九圓)
PORRICE, P. '18.—Applied Eugenics. (四圓二十錢)
WALTER, H. E. '18.—The human Skeleton (三圓五十錢)

●新著論文

小熊捍——家蠶の染色體に關する勝木氏の研究を難す、大日本蠶絲會報二八卷三二四號(大正八年一月)
奥田讓、沖本玉三——鯨肉蛋白の加水分解、東京化學會誌四〇ノ一
奥田讓、矢田威——鰯肉蛋白の加水分解、同右
W. W. COBT.—The Cerearia of the Japanese Blood Fluke, *Schistosoma japonicum* Katsurada. *Univ. Calif. Publ. Zool.*, Vol. 18, No. 17, 1919.
W. W. COBT.—Notes on the Eggs and Miracidia of the Human *Schistosomes*, *ibid.*, No. 18, 1919.